

2020年公認会計士試験合格者向け特別号

Contents

- 一般財団法人 会計教育研修機構(JFAEL) 情報…………… 2
- 《実務補習特集》…………… 4
 - 「職業的専門家としての使命感を!!」
～柳澤 義一 日本公認会計士協会 副会長～
 - 「令和2年公認会計士試験合格者に向けて」
～鶴田 光夫 実務補習責任者・日本公認会計士協会 常務理事～
 - 「実務補習所に入所される皆さんへ」
～後藤紳太郎 日本公認会計士協会 常務理事～
 - 「東京実務補習所に入所される皆さんへ」
～滝沢 勝己 東京実務補習所運営委員会 委員長～
 - 「東海実務補習所に入所される皆さんへ」
～小笠原修文 東海実務補習所運営委員会 委員長～
 - 「近畿実務補習所に新たに入所される皆さんへ」
～中尾 志都 近畿実務補習所運営委員会 委員長～
 - 「九州実務補習所へ入所される皆さんへ」
～加藤 太一 九州実務補習所運営委員会 委員長～

一般財団法人 会計教育研修機構 (JFAEL) 情報

(JFAELについて)

当法人は、日本公認会計士協会が中心となり、経済界、学界、関係各界の協力を得て、2009年7月に設立された会計に係る教育財団です。

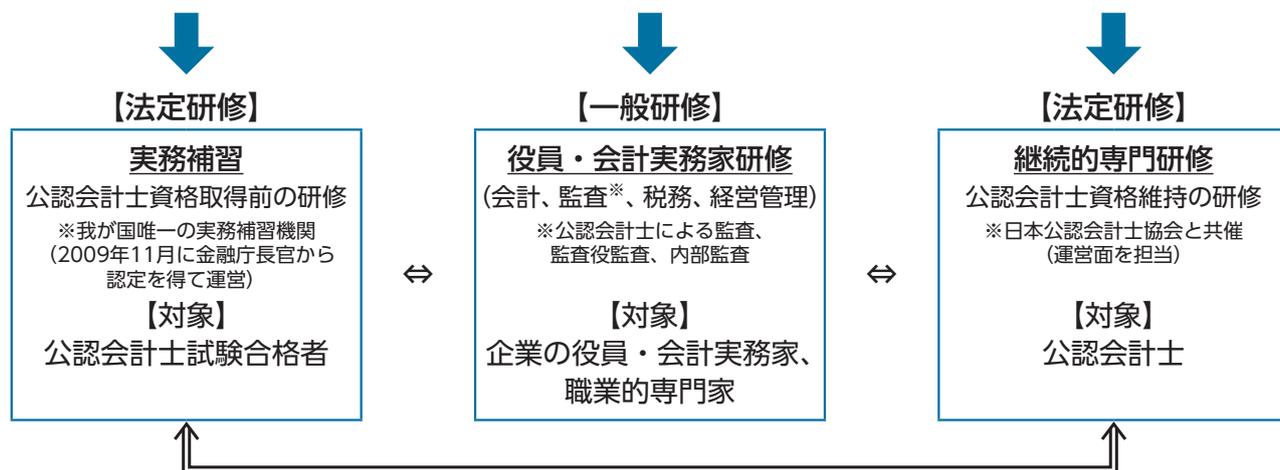
2018年3月に定款改正を行い、広く会計、監査及び税務に関心を有する者のニーズを踏まえた教育研修プログラムを提供し、専門知識や専門的技能の向上を実現し、我が国の会計人材の育成、会計リテラシーの向上に貢献することを目的としています。事業としては、会計実務に携わる者や取締役、監査役等の役員のための教育研修を行う「役員・会計実務家研修」と、公認会計士試験合格者のための法定研修を行う「実務補習」、公認会計士のための法定研修を行う「継続的専門研修」という3つの事業を行っています。

また、IFRSの任意適用企業が増加しつつある中、2013年11月にIFRS教育・研修委員会を設置し、関係諸団体の協力を得て、今後の我が国におけるIFRS教育・研修のあり方を検討し、関係者に働きかけを行うとともに、当法人としての取組みを推進しています。

このように、当法人は、関係者の協力のもと、オール・ジャパンとしての会計教育財団を目指して教育研修の機会を提供しています。

【目的】

会計、監査及び税務に関心を有する者の専門知識、専門的技能の向上を実現し、我が国の会計人材の育成、会計リテラシーの向上に貢献



(事業)

	実務補習	役員・会計実務家研修	継続的専門研修(CPE)
開催目的	公認会計士試験合格者の資質向上	会計、監査、税務、経営管理の知識向上	公認会計士としての資質の維持向上
開催場所	東京(含む8支所)、東海 近畿、九州	東京、名古屋、大阪、 福岡、札幌など	全国の約30カ所の会場

「職業的専門家としての使命感を!!」

日本公認会計士協会 副会長(後進育成担当)
一般財団法人会計教育研修機構 理事
東京実務補習所 所長

柳澤 義一



公認会計士の使命(公認会計士法 第1条)
公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

これはご存知の公認会計士の使命条項と言われる公認会計士法 第1条です。

だれが何のために皆さんに国家試験である公認会計士試験の受験の機会を与え、そしてその合格者に対して実務補習所というものを提供し、会計・監査のプロを養おうとしているのか、考えてみてほしいと思います。

それは、皆さんに一生の生活の糧を与えるためでも、公認会計士という肩書を与えて何かかっこいいビジネスを成功させて一儲けしてもらおうなどということでもありません。皆さんは我が国の国民経済の健全な発展に寄与するために今ここにいるのです。

まずもって、そのことをはっきりと自覚してください。そのうえで、公認会計士試験合格おめでとうございます。そして実務補習所によろこび歓迎いたします。

公認会計士という資格は一身専属の資格であり、生涯、自身のみで資格として続きます。人生100年時代、皆さんは生涯、公認会計士です。そして生涯、持ち続けなくてはならないのが職業的使命感です。職業的使命感とは何か、その解は自ら考え求めてください。

日本公認会計士協会の元会長である川北博先生は、その著書「新潮流 監査人の独立性」(同文館出版)において下記の言葉を述べています。

「監査人の独立性に関していえば、大きな不祥事等の生起のたびに法令等の基準(ルール)が整

備強化されるということは、当然に義務論ルール思考の先行を意味している。しかし、目的論思考がこれに追随しなければ、どんなにルールを整備しても企業の不正や監査の失敗、特に監査人の独立性の欠落を予防することはできない。義務論的思考と目的論的思考は、その双方のバランスが必要で、いずれかにぶれることは本来避けなければならないのである。」

青山学院大学大学院の町田祥弘教授がその編著「わが国監査規制の新潮流」において注釈されていますが、ここに出てくる義務論ルール思考(義務論的思考)とは、「ルールに基づく義務を果たせば監査人の社会的責任は完結される」という考え方であり、一方、目的論的思考とは、「監査人のpublic interestに対する奉仕」を目指す考え方です。

さらに川北先生のことばは、次のように結ばれています。「監査人の「心」に立ち入ることはたしかに至難であるけれども、職業倫理として普遍性のある考え方を整理し、職業専門家を教育することはすこぶる重要である。監査人に対する一般的な教育とともに監査人の入門教育では、特に職業倫理教育が重視されなければならない。職業倫理教育こそが具体的な不祥事予防のための実行可能な施策としてプロフェッションに重視されなければならないことをあらためて強調してむすびとする。」

実務補習所で何を学ぶべきか、それは一人ひとりが考えて欲しいと思います。

私が実務補習所に入所したのは、40年前の昭和56年です。そのときの日本公認会計士協会の会長が川北博先生でした。私は、先生から多くの教えを頂き、公認会計士としての職業的使命感というものを培うことができたと思っています。今もその教えが私の心の中で生きていていると思っています。

「令和2年公認会計士試験

合格者に向けて」

一般財団法人会計教育研修機構 実務補習責任者
日本公認会計士協会 常務理事(後進育成担当)

鶴田 光夫



公認会計士試験合格、おめでとうございます。皆さんは、コロナ禍のなか、会計職業専門家としてのスタートを切ることになりました。これから公認会計士となるために、実務経験に加えて実務補習の修了が必要となります。

実務補習のミッション(存在意義)は、試験合格者が「会計職業専門家としてふさわしい品位と幅広い識見を備え、専門的知識を実務上で応用できる能力を有する公認会計士」としてキャリアを歩み、グローバル時代の社会に貢献していくために必要な基礎を身につけるための補習教育を提供していくことです。そして、実務補習の修了までに身につけるべき必要な基礎とは、具体的に以下の通りです。

- 1) 社会に貢献する会計職業専門家としての価値観、倫理及び姿勢
- 2) 会計職業専門家に必要な専門的知識、実務能力、応用力とその学び方
- 3) 会計・税務・監査を一体不可分のものとして捉える能力

- 4) 会計職業専門家に必要なコミュニケーション能力
- 5) 公認会計士が活躍し社会に貢献する分野の理解
- 6) 会計職業専門家に必要なネットワーク力(人的ネットワークを構築し活用する能力)

皆さんには、これら必要な基礎を修得するために、所属する組織での実務経験だけでなく、実務補習を積極的に最大限に活用してもらいたいと思っています。

実務補習では、講義(オンラインを含む)や実地演習(ディスカッション及びゼミナール)を通して、単なる知識や技能の修得だけでなく、所属組織の枠を超えた関係、実務補習の同期や運営委員・講師の先輩会計士とのつながりを持つことができます。これは、自分もそうでしたが、将来の貴重な財産となるでしょう。皆さんが、この実務補習を通して会計職業専門家としての基礎を身に付け、公認会計士として社会に貢献されることを心から願っています。

「実務補習所に入所される皆さんへ」

日本公認会計士協会 常務理事(後進育成担当)

後藤 紳太郎



公認会計士試験合格おめでとうございます。

皆さんは、公認会計士試験に合格するため様々な努力を重ねて来られたと思います。特に今年は新型コロナウイルスの感染拡大下で試験も延期となるなど、様々な不安の中での受験だったと思います。皆さんの努力が報われたこと、心より喜び申し上げます。

皆さんは、公認会計士というプロフェッショナルの入り口に立っています。次の目標は、公認会計士の資格取得となりますが、資格を取得する目的について皆さんはどのように考えておられますか。資格を取得することで、より安定した人生を進めると考えておられる方もいると思いますが、私は、プロフェッショナルとして厳しいけれども豊かでより価値のある人生を歩んでいくためだと考えます。

公認会計士は、監査だけでなく、コンサルティング、

税務、組織内会計士など様々な領域で活躍しています。また、こういった経験を生かして社外役員となっている公認会計士も数多くいます。

皆さんにとって実務補習期間はプロフェッショナルとしての基礎をつくる大切な期間です。実務補習所や勤務先等で様々な学習機会が提供されます。それらを生かしてプロフェッショナルとしてのしっかりとした基礎を作ることが、今後皆さんが様々な領域で活躍する上で、多様性と優位性をもたらしてくれると考えます。

皆さんのプロフェッショナルとしての人生にとって何のための実務補習であるのかをよく考えて、目的・目標をしっかりと見極め、この期間に学ぶべきことを学び、経験すべきことを経験し、プロフェッショナルとしての基礎をしっかりと固められることを望みます。

「東京実務補習所に 入所される皆さんへ」

東京実務補習所運営委員会 委員長 **滝沢 勝己**



公認会計士試験の合格おめでとうございます。令和2年公認会計士試験は、新型コロナウイルス感染拡大により、日程や時期が変更されるなどで試験勉強の不安や体調管理の心配も多い中で、「合格」という成果に結びつけられたことは、実務補習の運営に携わる一員として大変うれしく思います。

今日、ビジネス世界においても、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進は、新型コロナウイルス感染の世界的な拡大によりさらに加速し、また、加速することが求められている状況であります。

このDXは「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」(令和元年7月 経済産業省)とされ、単に、IT領域のみな

らず企業文化(固定観念)を変革することで事業環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、また、これまで疑問を持たなかった企業文化の変革に踏み込めたか否かがその分かれ目などとされています。

公認会計士の業務についても、このDXの流れが無関係であることはなく、迅速かつ柔軟に様々なステークホルダーからの期待に応えるため、より付加価値のある高品質な業務への変革が求められる大きな変革期であるものと感じています。

これから皆さんは、公認会計士としての社会的使命を果たしていくための基礎を実務補習で学んでいくこととなります。DXと同様に固定観念を変革することは意外に難しいことですが、公認会計士試験の合格を機に、皆さん一人ひとりがご自身の将来のための貴重な機会と捉え、改めてご自身の「変革」を考える良い機会としてもらいたいと思います。

「東海実務補習所に 入所される皆さんへ」

東海実務補習所運営委員会 委員長 **小笠原 修文**



公認会計士試験合格、おめでとうございます。新型コロナウイルスの影響による逆境に負けず、過酷な受験勉強を乗り越えられた皆さんの努力に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

実務補習所では、皆さんが公認会計士として社会で活躍できる存在になるために、皆さんの成長をサポートしていきます。コロナ禍においても決して皆さんの学びを止めません。公認会計士の先輩として、私達が習得した知識や経験を、情熱をもって皆さんに伝えていきたいと思っています。

東海実務補習所は、東海四県に所属する補習生が通う補習所です。同期が70名程度であるため、自然と団結力の強い補習所となっています。皆さんには以下の3つの事を心掛けて頂きたいと思っています。

①講義の受講を怠らないこと

講義を受講する事は当たり前のことですが、仕事しながら講義を受講し続けることは想像以上に大変だと感じるかもしれません。是非、初心を忘れずに頑張っ

てください。

②積極的な参加意識を持つこと

3年間の実務補習カリキュラムは大変充実しており、単位取得のために多くの時間を費やすこととなります。決して受け身にならず、積極的な参加意識を持って一つでも多くの事を学ぶ貪欲な気持ちで臨んで下さい。

③かけがえのない仲間を作ること

実務補習を通じて出会った同期や先輩会計士と交流する機会を大切に、かけがえのない仲間を作って下さい。残念ながら現在のコロナ禍においては一同に会することが難しいため、オンラインにより交流する機会を積極的に設けていきたいと思っています。

最後に、実務補習所は講師の方々だけでなく、運営に携わる沢山の先輩会計士やスタッフの方々にも支えられています。是非、皆さんの成長をサポートして下さる方々への感謝の気持ちも大切にして、実務補習に臨んでください。どうぞ宜しくお願いします。

「近畿実務補習所に 新たに入所される皆さんへ」

近畿実務補習所運営委員会 委員長

中尾 志都



公認会計士試験合格、おめでとうございます。日々の努力の結果、新たなステージに立たれた今、未来への期待と意気込みで胸を膨らませていることでしょう。皆さんを歴史ある近畿実務補習所の66期生としてお迎えすることを本当に嬉しく思います。

補習所では、実務に即した知識と心構えを習得していただくためのカリキュラムを準備していますが、昨年からコロナの影響により対面型の講義の中止等、イレギュラーな運営となっています。しかし一方で、いつでもどこからでも受講できるeラーニング講義の充実やオンライン授業の開催等、新たな取り組みを始めています。皆さんには、どの様な状況下でも、学ぼうとする気持ちがあれば必ずその志は達成されると信じて、補習所での勉学に励んでもらいたいと思います。そして、ぜひ習得してもらいたいことが3つあります。

1つ目は、プロフェッショナルとしての知識と判断力です。監査や会計を取り巻く環境が目まぐるしく変化中、私たち公認会計士に求められているのは、継続

的な研鑽を通じて正確な知識を習得し適切な判断を下すことです。補習所で学んだことを監査現場で実践し、また実践の場で得たものを自分の知見とすることによって適切な判断ができるよう鍛錬を重ねてください。

2つ目は、公認会計士である限り保持すべき高度な倫理観です。資本市場の信頼を守る番人として、適切な判断をするためにも高度な倫理観が必要です。時にはクライアントと対峙しなければならないこともありますが、怯むことなく正しい道に向かう強さを身に付けてください。

3つ目は、信頼できる仲間です。同期や講師の先生方と積極的に意見を交わし、様々な経験を共有してください。楽しく、お互いに切磋琢磨しながら成長していただきたいと思います。

補習所での学びが皆さんにとって有意義なものになるように、サポートして参りますので、よろしくお願ひします。

「九州実務補習所へ 入所される皆さんへ」

九州実務補習所運営委員会 委員長

加藤 太一



公認会計士試験の合格、おめでとうございます。九州実務補習所は2001年に開設され、皆さんは20期生となります。入所にあたり、3つのことをお伝えします。

1つめは、実務補習の目的を意識することです。実務補習の目的は、「会計職業専門家としてふさわしい品位と幅広い識見を備え、専門知識を実務上で応用できる能力を有する公認会計士」になるための基礎を身につける点にあります。

昨年より、九州実務補習所のほとんどの講義は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン配信となりました。従来のライブ講義ならではの良さもありますが、なによりオンライン講義は仕事の時間とバッティングせず、自分で時間をとって受講することができるという利点があります。一人でPCの画面に向かっての受講は、緊張感を保ちにくいかもしれません。しかし、実務補習の目的を意識して全ての講義をしっかりと消化し、自分の力をつけていってください。

2つめは、仕事の目的を考えることです。例えば、石

垣をひたすら積み上げなければいけない重労働の方でも「俺のこの手で石垣を積み上げることで、自分のこどもや周囲の人たちの平和と安心を守ることができるんだ」と考えながらできる人と、ただ「肉体労働は辛いな」と思いながらやっている人では、生産性もやりがいも段違いになるでしょう。

目の前に今ある地道で単調な作業が、実は大きな目的の一部と捉えることができるかどうか。同じことが監査にも言えます。

3つめは、共感できる仲間を見つけて欲しいということ。特に同期というのはかけがえのないものです。この点、九州実務補習所は全員の顔が見える規模で、同期生と親しくなりやすい恵まれた環境です。オンラインでは難しいと思いますが、一部の講義はライブでの実施も予定しています。仲間づくりの場としても、ライブ講義も積極的に活用してください。

皆さんがキャリアの良きスタートを切れるよう、サポートしていきます。どうぞよろしくお願ひします。



～会計教育財団として、我が国の会計人材の育成・会計リテラシーの向上を目指す～



JFAELニュースレター -特別号-

2021年2月発行

発行人 手塚 正彦

発行 一般財団法人会計教育研修機構 (JFAEL)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-7

大手町フィナンシャルシティ サウスタワー5F

Tel : 03-3510-7860 Fax : 03-3510-7866

WEB : <http://www.jfael.or.jp/>

